

「中国の七夕節」

国際交流員 房 倩倩（中国）

中国では、伝統的な祭日の七夕節（チーシージェ）は旧暦の七月七日（今年は陽暦の8月28日）です。その始まりは約1800年前の漢の時代に遡ります。伝承によれば、年に一度七月七日の夜に、天の織姫（おりひめ）と牛郎（ぎゅうろう）はカササギの橋で出会います。織姫は美しく知恵のある天女（てんにょ）でした。その日の夜、一般の女性たちが織姫に知恵や針仕事の上達を乞（こ）い、また円満な結婚を祈り求めるのです。七夕節を祝う主体は少女であるゆえ、「少女節」あるいは「女兒節（じょじせつ）」とも呼ばれます。2006年5月20日に、七夕節が中国国務院に国の無形文化財として認定されました。



中国各地で七夕節を祝う方法はさまざまありますが、中には一番古くて広く伝えられているのが針に糸を通す風習です。それは漢の時代から始まり、今でも継承し続けています。昔の中国では、裁縫や刺繍など、針がなければできない仕事なので、女の子は針を使いこなせなければならないのです。ルールは、糸を早く通させる方が勝ち、遅い方が負けということです。負けた人は勝った人にプレゼントをあげることになります。



また、蜘蛛の巣の形で女子の手先が器用かどうかを判断します。この風習は中国南北朝時代から始まりました。七月七日の夜に、蜘蛛を宝石箱などの器に入れて、翌朝、箱を開けて見て、もし網が丸くて張っていれば、女性の手先が器用だと判断できます。

他には以下のような風習もあります。

◆牛を誉めます。七夕の日に、子供は野の花を摘んで牛の角に飾ります。伝説によると、西王母（せいおうぼ）は天の川（あまのがわ）で織姫と牛郎を別れさせました。牛郎の牛は主人が天の川を渡って織女に会えるために、自己犠牲で主人を自分の皮に乗せ、織姫に会いに行かせたのです。牛の犠牲精神を記念するために、七夕に牛を誉める習慣になります。



- ◆織姫を拝みます。主体は少女や若い女性だけです。友達や近所の女性たちが五、六人ぐらい集まって織姫を拝む儀式を行います。お茶、お酒、お花、果物、竜眼、棗、ナッツ類、などを供え、お香を焚いて拜んでから、皆、机を囲んで座って、織姫星を眺めてお願い事をします。
- ◆爪を染めます。中国南西地方の風俗で、女性や子供たちは花や草で爪を染めます。
- ◆七夕のお菓子を食べます。小麦粉、砂糖、ゴマ、蜂蜜などを原料とした揚げたものです。



日本では笹に願い事を書いた短冊などを吊り、七夕を楽しんでいます。中国では織姫星に願い事をします。皆さんは、どのようなお願いごとをしましたか？織姫星がちゃんと見ていますよ。

中国的七夕节

每年农历七月初七这一天是中国的传统节日七夕节。七夕节始于中国汉朝。相传，在每年的这个夜晚，是天上织女与牛郎在鹊桥相会。织女是一个美丽聪明、心灵手巧的仙女，凡间的妇女便在这一天晚上向她乞求智慧和巧艺，也少不了向她求赐美满姻缘。因七夕活动主要参与者是少女，又称为“少女节”、“女儿节”。2006年5月20日，七夕节被中华人民共和国国务院列入第一批国家级非物质文化遗产名录。

各地有各种各样庆祝七夕的风俗。其中流传时间最久、流传范围最广的当属“月下穿针”。起源于汉朝，并延续至今。针是一种特殊的节日道具，女红针线活儿必备，乃古代女孩子必须会用的。女子比赛穿针，谁穿得越快，就意味着谁乞到的巧越多。穿得慢的称为“输巧”。“输巧”的人要将事先准备好的礼物送给得巧者。

另外，还有“喜蛛应巧”，大致起于南北朝时期，即在七月初七晚，将捉来的喜蛛放在首饰盒里或其他器皿里。第二天清晨，打开盒子观察蜘蛛结网的情况，如果网结得方圆得体、疏密有致，即预示着这位乞巧者心灵手巧。

此外，还有以下风俗。

◆为牛庆生

儿童会在七夕之日采摘野花挂在牛角上，又叫“贺牛生日”。因为传说西王母用天河把牛郎织女分开后，老牛为了让牛郎能够跨越天河见到织女，让牛郎把它的皮刨下来，驾着它的牛皮去见织女。人们为了纪念老牛的牺牲精神，便有了“为牛庆生”的习俗。

◆拜织女

“拜织女”纯是少女、少妇们的事。她们大都是预先和自己朋友或邻里们约好五六人，联合举行仪式。置茶、酒、鲜花、水果、五子（桂圆、红枣、榛子、花生，瓜子）等祭品，焚香礼拜后，大家一起围坐在桌前，一面朝着织女星，默念自己的心事，祈求实现。

◆染指甲

◆染指甲系流传在中国西南一带的七夕习俗，女子与孩子们用花草染指甲。

◆吃巧果

主要的材料是油、面、糖、芝麻、蜂蜜等。

在日本，七夕节通常会在诗笺上写下自己的愿望并挂在竹子上。中国则是对月许愿。大家都有什么愿望呢？天上的织女星在守望着呢。